

## 第 1 回 Kawa-Bay 未来投資会議 議事録要旨

日 時	平成 29 年 7 月 22 日 (土)	時間	10:00～12:00
場 所	川辺町中央公民館 1 階研修室		
内 容	比久見地区工場跡地を活用したまちの活性化策を検討する会議の設立		
出席者	別紙名簿のとおり		
▼議事			
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 町長あいさつ、会議の趣旨について</li> <li>(2) 委員自己紹介</li> <li>(3) 座長の選出</li> <li>(4) 比久見地区工場跡地の概要</li> <li>(5) 今後のスケジュールについて</li> <li>(6) 意見交換</li> </ul>			
▼議事概要			
<p>(1) 町長あいさつ、会議の趣旨について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仮称から「Kawa-Bay未来投資会議」への改称提案と語源説明。かつて木材運搬で栄えた下麻生の綱場の歴史から伊勢湾 (Bay) をイメージ。</li> <li>・ 平成27年12月に経済8団体連名で提出された「かわべ近未来マップ」提言書を一度は断ったもののずっと考え続け、中でも比久見の工場跡地7,000坪をてこにして町を発展させるプランは魅力的であり、先の町長選挙のマニフェストでは1番目に元気な町を取り戻すためこの土地の有効活用策を検討していくことを掲げた。</li> <li>・ これに取り組む1番の根源は人口減少と少子高齢化の問題であり、その解決の糸口として工場跡地の有効活用を考えている。4期16年の町長任期中に人口が約800人減少した。下麻生地区を中心とした空き家の増加、町内3小学校では児童数の減少と校舎の老朽化が進んでいる。</li> <li>・ 土地の所有者とは選挙期間中に面会して売却について前向きな返答をもらった。7月に入って再度面会し、買収に向けた話し合いを進めている。地中に大量に埋まっているタイルの量は不明なので調査が必要であり、費用負担など相手方と交渉していかなければならない。</li> </ul> <p>▽座長決定後、補足 (町長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7月20日に開催した「町長と語る会」においてこの会議のメンバーの選定基準とメンバーの公表の要望があったが、公表してよろしいか。全員了承。</li> <li>・ 町民の皆さんで参加したい方がいればオープンにして、意見を聞く場を作っていたほうがよい。(加藤座長)</li> <li>・ この会議を平成29年度末までに3～4回の会議を開いて、活用策を3案くらいにまとめていただきたい。その後パブリックコメントを実施したい。</li> <li>・ 用地買収の費用や調査費用、タイルの撤去方法については今年度内に決めたい。</li> <li>・ 町長任期中の4年間に何か一つ着工という運びになるようなスピード感で会議を進めて行きたい。</li> <li>・ 跡地に隣接する遊歩道も含めたエリアで活用策を考えていただきたい。</li> </ul>			

## (2) 委員自己紹介

- ・配付した委員名簿順にそれぞれ90秒間の自己紹介をしていただいた。

## (3) 座長の選出、あいさつ

- ・事務局提案として町長から加藤孝明委員を推薦し、全会一致で承認。
- ・井伊直政が残した言葉を引用して、結末は予め見えているものではなく歴史は後から評価される、スタートを切った以上失敗を考えず委員の皆さんには川辺町のためだと思ってとにかく一生懸命邁進していただきたい。
- ・町商工会員はこの3年で320から292へと1割減少した。この先10年は高齢化が一層進み、低出生率と高齢者の死亡で人口移動が加速する。
- ・町には若い人が集い遊ぶ場所がない。だから「交流センター」とは町民全体が交流できる、面白い場所、楽しい場所、その基になる場所だということでそれをまず一つ設定することが必要だという考えから出てきた。

## (4) 比久見地区工場跡地の概要

- ・馬場企画まちづくり課長から資料に沿って概要説明。
- ・地価については調査中。固定資産税路線価などから概算はできる。

## (5) 今後のスケジュールについて

- ・馬場企画まちづくり課長から説明。
- ・次回第2回の会議は10月1日（日）午前10時から「やすらぎの家」で開催。
- ・当日は会場目の漕艇場で全国中学校新人ボート大会が行われる。

## (6) 意見交換

- ・ファシリテーターの藤田さんが進行。
- ・事前に委員宛に活用策等の提出を依頼したところ、5件の意見をいただいたのでファシリテーターから紹介。提案者の委員がその都度補足説明。事前承諾の上、原文のまま資料として提示。
- ・新たな価値の創出。この土地・場所をその主力ゾーンとして考える。2020年代前半は東海環状道路の西回りが完成して三重県まで直結、その先の新名神も完成する。2020年代後半にはリニアが営業を開始し、川辺～東京間が1.5時間で結ばれる。時間の価値が変化する中で、ものづくりや芸術文化にチャレンジできるシェアオフィスやシェアアトリエをこの場所で提供してはどうか。（廣瀬委員）
- ・森の中のショッピングモール、新しいキャンプのスタイルで贅沢な設備を設えたグランピング施設、レジャーの拠点となり湖岸遊歩道も取り込んで町全体をテーマパークやアウトレットモール化。サーフボードに乗って川を漕ぐサップや、カヤックのクルーズツアーなど水辺の遊びができる場所。（前島委員）
- ・野外ステージを設けて音楽フェスの開催。（神農委員：藤田さん代読）
- ・ファシリテーターから土地の取得について意見を促す。
- ・埋まっているものなど課題が多いので、いろいろ調べた上で財政的な負担を考えれば借地というのも選択肢に入れてもよいのではないかと。町が所有したほうが身近なものに感じるとは思う。（廣瀬委員）
- ・過去に湖岸遊歩道を整備する際に川側の土地の一部を譲っていただき工事を始めたところ、大量のタイルが地中から出てきて800万円を要した。今回新たに土地を購入するとなると処分の費用負担をどうするか、所有者と話しを進めたい。当時の工場長からの聞き取りによる推測だと約12,000m<sup>3</sup>、約16,473tの廃棄物があると見込まれている。前例を参考にすると、処理費は相当な

金額が必要になるのではないか。（町長）

- ・地理的にも（条件が良いので）、何に使うかは別として土地は町が購入すべきだろう。ただし川辺町が将来こうありたいという思いを持った上でこの土地の利用を考えていかなければならない。（佐伯委員）
- ・ボーリング調査などで埋まっているタイルを確認した上で、再利用できないか。シルバー人材を活かせないか。（藤田さん）
- ・町の総合計画などいろんな計画に照らしてこうするのだという風でなければ議会も通らないと思う。土地を買うことだけでなく、ポートという強みを活かして人々が集う場所、遊歩道を走る人のための休憩場所やシャワーや着替えができる場所など、まずは皆さんがアイデアを言いたい放題言う時間を取ったほうがよいのではないか。その上でここをこうしたいというのであれば、いろんな手法があってお金がなければ借地もあるし、PFIという手法も検討すべきだと思う。（伊藤委員）
- ・タイルを取り除いた後、埋めるのも費用なので、あえて整地することなく掘られた穴による土地の起伏を利点とした計画も考えれば選択肢が広がってくる。（前島委員）
- ・町議会としては産廃処理を一番問題視している。どう処理するのか、説明責任が果たせないと議会の承認は得られない。（平岡委員）
- ・土壌汚染があれば撤去しなければならない。安全であれば費用面から言ってもそのままでもよい。岐阜市のメディアコスモスは若者や子連れのお母さんなどで賑わっているのでこういう拠点づくりもよい。ここで案を作って、それを題材にしたワークショップを開いて町民の意見を聞く機会を取れるとよいのではないか。（富樫委員）
- ・たたき台を作るために、地元の若者などに声をかけて実働部隊、作業部会を作り、進めていってはどうか。（藤田さん）
- ・ここに盛り込めるアイデアはいろんな方から幅広くたくさん出てくるので集約をし、積み重ねていく。しかし現実的には土地の問題が解決しないと机上の空論で終わってしまうから、町はこの会議とは別に調査対策など進めていく必要があるのではないか。（加藤座長）

#### ▼まとめ

- ◇今回の会議では全体としてこの場所の重要性を考えて、取得（または借用）に異論は無かった。
- ◇町の総合計画などと照らして明確な計画でなければ、議会（町民）の承認を得ることはできない。
- ◇この土地に埋まっている産業廃棄物について、処分方法や費用などが明らかにならないと空論に終わってしまうから、町はこの会議とは別に早急に土地の取得に向けた様々な調査を進める必要がある。
- ◇ワークショップなどを開催して、町民も入ったアイデアを出せる機会を作るとよい。具体的なたたき台を作るために、地元若者中心の作業部会を作ってみてはどうか。

#### ▼その他

- ◇委員の皆さんには、この会議後も引き続きメールなどでアイデアを出していただくよう依頼した。